

Ⅲ 耕地の利用状況

1 夏期における田本地の利用状況

(1) 平成23年夏期（おおむね水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は163万1,000ha（青刈り面積を含む。）で、前年に比べて2万6,000ha（2%）減少した。水稲以外の作物のみの作付田は42万6,800haで、前年に比べて1,700ha減少した。また、夏期全期不作付地は27万5,400haで、前年に比べて5,900ha（2%）増加した。

この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は前年に比べて0.5ポイント低下して69.9%、水稲以外の作物のみの作付田の割合は前年に比べて0.1ポイント上昇して18.3%、夏期全期不作付地の割合は前年に比べて0.4ポイント上昇して11.8%となった。（表13）

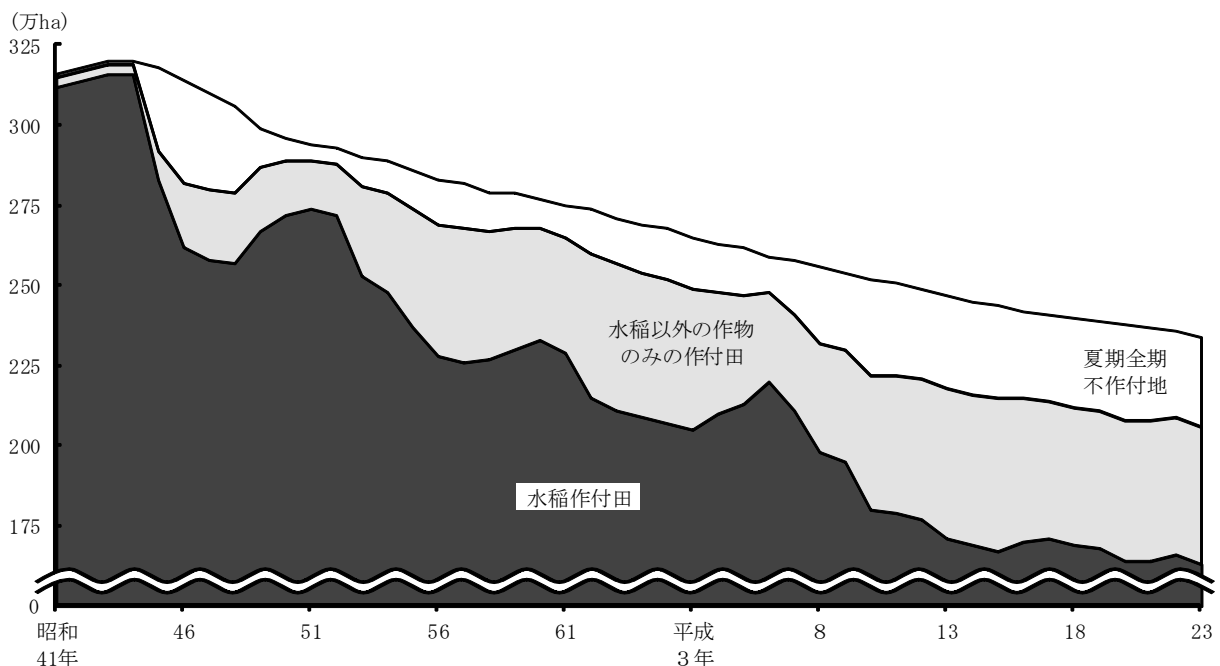
表13 平成23年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
	ha	ha	%	%
田 本 地	2,334,000	△ 21,000	99	100.0
水 稲 作 付 田	1,631,000	△ 26,000	98	69.9
水稲以外の作物のみの作付田	426,800	△ 1,700	100	18.3
夏 期 全 期 不 作 付 地	275,400	5,900	102	11.8

(2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、昭和45年に米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあるものの、水稲作付田は減少傾向で推移し、水稲以外の作物のみの作付田及び夏期全期不作付地については増加傾向で推移している。

（図12）

図12 夏期における田本地の利用状況の推移



2 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

- (1) 平成23年における田の農作物作付(栽培)延べ面積は227万8,000haで、前年に比べて2万5,000ha(1%)減少した。(表14)

これは、飼肥料作物、雑穀、麦類の作付面積が増加したものの、水稻、豆類等の作付(栽培)面積が減少したためである。

田の耕地利用率は92.1%で、前年に比べて0.2ポイント低下した。(表14)

- (2) 畑の農作物作付(栽培)延べ面積は191万5,000haで、前年に比べて1万5,000ha(1%)減少した。(表14)

これは、雑穀、麦類の作付面積が増加したものの、野菜、飼肥料作物、工芸農作物等の作付(栽培)面積が減少したためである。

畑の耕地利用率は91.8%で、前年に比べて0.2ポイント低下した。(表14)

- (3) この結果、田畑計の耕地利用率は91.9%で、前年に比べて0.3ポイント低下した。

これは、福島県において東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を受けた区域において作付けが行えなかった耕地が相当数あることが影響しているものとみられる。(表14)

表14 平成23年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

区 分	田 畑 計				田			畑		
	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		耕 地 利用率	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		作付(栽培) 延べ面積	前年との比較	
		対差	対比			対差	対比		対差	対比
	ha	ha	%	%	ha	ha	%	ha	ha	%
作付(栽培)延べ面積	4,193,000	△ 40,000	99	91.9	2,278,000	△ 25,000	99	1,915,000	△ 15,000	99
水陸稲(子実用)	1,576,000	△ 52,000	97	34.6	1,574,000	△ 51,000	97	2,510	△ 540	82
麦類(子実用)	271,800	5,900	102	6.0	170,700	3,400	102	101,200	2,600	103
かんしょ	38,900	△ 800	98	0.9	2,970	△ 150	95	36,000	△ 600	98
雑穀(乾燥子実用)	58,100	8,400	117	1.3	38,800	4,200	112	19,300	4,100	127
豆類(乾燥子実用)	186,200	△ 2,800	99	4.1	123,800	△ 2,200	98	62,400	△ 600	99
野 菜	541,400	△ 6,500	99	11.9	145,000	△ 700	100	396,500	△ 5,700	99
果 樹	243,500	△ 3,400	99	5.3	-	-	nc	243,500	△ 3,400	99
工 芸 農 作 物	161,100	△ 5,500	97	3.5	7,950	△ 610	93	153,200	△ 4,800	97
飼 肥 料 作 物	1,030,000	18,000	102	22.6	188,600	23,500	114	840,900	△ 5,600	99
そ の 他 作 物	86,100	△ 900	99	1.9	26,900	△ 300	99	59,100	△ 700	99
耕 地 面 積	4,561,000	△ 32,000	99	nc	2,474,000	△ 22,000	99	2,087,000	△ 10,000	100
耕 地 利 用 率	91.9%	△0.3ポイント	nc	nc	92.1%	△0.2ポイント	nc	91.8%	△0.2ポイント	nc

注：耕地利用率とは、耕地面積に対する作付(栽培)延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率(\%)} = \frac{\text{作付(栽培)延べ面積}}{\text{耕地面積(7月15日現在)}} \times 100$$

- (4) 作付(栽培)延べ面積の動向をみると、昭和40年代は麦類を中心とした水田裏作の減少や、45年から始まった米の生産調整による不作付地の急増により、田を中心に大幅に減少を続けてきたものの、49年以降は麦類の生産振興による作付回復等からほぼ横ばいで推移してきた。60年以降は麦類に加え豆類等も減少し、平成10年からは米の生産調整の一環で麦類、豆類等の作付けは増加したものの、総体的には減少傾向で推移している。(図13)
- (5) 耕地利用率の動向をみると、昭和40年には123.8%であったが、その後も低下傾向で推移し、平成6年には100%を下回った。平成11年に昭和59年以来15年ぶりに上昇して以降、ほぼ減少傾向で推移してきたが、平成22年は10年ぶりに上昇した。(図13)

図13 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率の推移

